

平成二十九年年度 大妻中野中学校海外帰国生選抜入学試験 問題用紙
(第二回・一月十四日)

国語

座 席 番 号
番

受 験 番 号
番
氏 名

受験上の注意

- (一) この問題用紙は表紙を含めて8ページあります。
- (二) 試験開始後ただちにページ数を確認して下さい。
- (三) 問題用紙、解答用紙それぞれに受験番号と座席番号と氏名を記入してください。受験番号と座席番号は算用数字で記入してください。
- (四) 試験時間は五十分です。
- (五) 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- (六) この試験は百点満点です。

□ 次の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。

青木青兵は生ゴミ担当のポリバケツです。ゴミの分別うんぬんがいわれだすよりずっと前から、横丁の角に立っているのです。名前の由来は横腹に、堂々たる達筆でそう書かれてあるから。書道の先生をやっていたもちぬしは、八年前の正月、もちを気管に詰まらせ亡くなりました。それ以来、「青木青兵」といえば、町内ではこのゴミバケツをさします。

昔かたぎの青木青兵は、①曲がったことが大きいです。コンビニ弁当の箱など投げ込まれそうになると、「おうっと、あんた、分別してくれ！」

ばたばたと青いからだを揺らせ、

「プラゴミはほら、隣の隣だ。それに不燃ゴミは水曜だろ。面倒でも出直してくるこった」

それでもプラゴミが投げ入れられると、青木青兵はわざと横倒しに転がって、ペットボトルや弁当箱を路上に放りだす。近所のひとびと（人間）はいい顔をしませんでしたが、バケツ仲間からは、青木青兵は非常に尊敬されていました。また、いつもなかのゴミを取り出しやすく整頓せいとんしていたので、区の収集業者にもずいぶん好かれています。

ゴミバケツの間では、昔から生ゴミバケツがもつとも荣誉ある仕事とされてきました。若い新入りや非力なものは、ペットボトルや空き缶など、乾いた軽ゴミを任されることが多い。燃えたり腐ったり、猫やカラスに狙ねらわれたりする生ゴミは、②なまなかなバケツでは扱いきれないのです。かれこれ二十年近く生ゴミを扱ってきた青木青兵には、見る者の居住いすまいをただしめるような、堂々たる威厳が備わっていました。ただ、昔ながらの気質はこの町内でもじよじよに失われつつあります。あたりではマンションの新築がつづき、見なれぬ風体ふうたいの輩やからも数多く行き交っています。

青木青兵のなかに、子犬が一匹捨てられたのは晩春の宵よのことでした。不屈よきものは闇のなか、バケツのふたをぎゅうぎゅう堅かたく締めこみました。③青兵は歯がみし、走り去る影をじつとにらんでいました。腹の子犬はきゅうきゅう鳴き声をあげています。

青兵は勢いをつけ、青いからだを横倒しにしました。バタン！ ふたがとれない。起きあがってもう一度、バタン！ 今度はうまくいった。走りだた子犬は、一散に裏路地へかけこんでいきました。転がったふたをとり、青兵はやれやれとつぶやきました。脇腹わきばらに少し鈍い痛みを感じています。翌朝、近隣のひとびとは④青木青兵の異変に気づきました。太った主婦があげつらうように、青いバケツを何度も指さします。隣組の組長がやってきて、白いステッカーを青兵の横腹にべたんと貼り付けました。自分ではよく見えませんかから、

「よう、こいつはなんだい？ いったいなんて書いてあるんだね？」

青木青兵はまわりのバケツにたずねました。しかし仲間たちは **A** 目を伏せ、青兵の声がかきこえないふりをしました。

トラックでやってきた収集業者は、おや、という風に目をみはった。首を左右にふると、からの青兵をもちあげ、そのままトラックに放りあげました。ステッカーには赤い文字で「埋め立て」とありました。たった一筋ついたひび割れが、ゴミバケツの青兵自身を、埋立ゴミに変えてしまった

のです。

埋立地では、何台ものトラックが街じゅうから集めたゴミをぶちまけていきます。青兵もそのなかにいました。気分はふしぎと落ちついていました。長年ゴミを扱ってきた青兵には、⑤ **いざれ自分にふりかかるさだめ** がわかっていたのかもしれない。まわりの古ラジオ、パイプ椅子、調理台などは、青兵を見てあざけるように笑いました。青兵は素知らぬ顔で、流れる雲を **B** みあげています。

二年ほど経つうち、埋立地の青兵はカモメたちの巢になりました。バケツの底は **C** 暖かく、夜風をやりすごすのにちょうどいい。なかでも一羽、とりわけ大きな片目のオスが、青兵の親友になりました。

「青兵さん、あんたまさかこんな場所で、一生を終えるつもりじゃなからうね」
目をばちばちさせてカモメはいいいます。

「世が世なら大勢の上立ってる人物だよ」

「よせやい。おれなんざもう役なしさ」

青木青兵は苦笑し、

「さ、早く謎かけのつづきをやろうぜ」

その夏沿岸地方をおそった台風はものすごいものでした。三十棟の屋根を吹き飛ばし、船は五十艘が沈みました。脆弱な地盤の埋立地は、根こそぎ大波にさらわれました。

晴れ渡った海原に、青いポリバケツだけが **D** 浮かんでいます。波をかぶり、海中に沈みそうになると、カモメたちが何羽も舞い降り、青兵をくわえ水面へと引き上げます。まんなかで指揮をとるのは片目のオスです。やがて一羽、また一羽と、若いカモメたちはえさを求めて去っていきました。

「もういい！ ⑥ **おまえも行ってくれ**」

空をみあげて叫ぶ青兵に、片目のオスは、

「あんたの行く末を見届けてからでなけりや、俺はどこへも行かれない」

そのうち空腹のあまり、カモメはバケツのなかへ落下しました。青兵は波が入らぬよう懸命に身を立て、激しい海流にあおられながら、ぐんぐんと流されていきました。

そうしてたどりついたのが、南国の浜。島じゅうに果物がなり、磯にはサザエやアワビが敷き詰められた、人知れぬ楽園です。ひとびとは王様のため、島の中央に宮殿を建てていました。流木と石ころでできたこの宮殿を、王様はたいそう誇りに思っていました。

若い漁師が浜に転がるバケツを見つけ、王の御前へもつていきます。なんと深い青色だろう！ と王様はつぶやいた。そして「青木青兵」の文字をじっと見つめ、

「これぞ海のとまもの、この模様こそ海神の御ことばを写したものだ！」
平伏する漁師をかたく抱きしめました。

島にはこれまでゴミバケツが一個もありませんでした。というより、そもそもゴミという考え自体、存在しなかった。果物のかすや貝の殻かは、そこらに穴を掘って埋めておけばいい。⑦かぐわしく（E）空気が、島のあらゆる所にたちこめています。

毎朝、五人の従者が青いバケツをかかえ浜辺へと出向きます。動物の骨、ガラスのかけらやさんごなど、あらゆる漂着物を青兵に収め、王様のもとへと運んでいきます。それらは海神よりの下し物とされ、すべて宮殿をかざる宝となるのでした。

片目のカモメが空から声をかけてくる。

「な、青兵さん。あんたはやっぱりただのバケツじゃなかった」

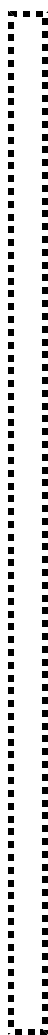
嬉しそうに羽ばたきして、

「いまや を入れる、 バケツだ！」

青木青兵はまぶしげに空をみあげ、

「おちぶれちまったなあ」

と苦笑しました。



（いしいしんじ『雪屋のロックスさん』による）

問一 — 部①「曲がったこと」とありますが、たとえばどのようなことですか。本文のことばを使って十二字程度で説明しなさい。

問二 — 部②「なまなかなバケツ」とありますが、どのようなバケツですか。本文中に挙げられた例を五文字で二つ抜き出しなさい。

問三 — 部③「青兵は齒がみし、走り去る影をじっとにらんでいました」とありますが、それはなぜですか。ふさわしいものを

次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ゴミの分別に「子犬」という項目がないので、間違っていると指摘できないから
イ フタがぎゅうぎゅうに締められたせいで、声を出して間違いを指摘できないから
ウ バケツの身では犬を捨てた犯人を追いかけて捕ま^{つか}え、注意することができないから
エ 犬をゴミだと考える人間性に対して、声も出せないくらい腹が立ってしまったから

問四 部④「青木青兵の異変」とありますが、具体的にどのようなことですか。文中から十二字で抜き出しなさい。

問五 部⑤「いずれ自分にふりかかるさだめ」とありますが、それはどのようなことですか。次の空らんにあてはまるように考えて答えなさい。

自分自身が こと。

問六 文中の A D に入る言葉として最もふさわしいものをそれぞれ次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア ぼかんと イ じんわりと ウ ぶかぶかと エ さつと

問七 部⑥「おまえ」とは、だれのことですか。文中から十二字で抜き出しなさい。

問八 部⑦「かぐわしく」 E (空気) とありますが、(E) にあてはまる言葉を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア おおらかな イ 非常に臭い ウ いい加減な エ 絶望的に無知な

問九 文中の に共通してあてはまることばを、文中から漢字一字で抜き出しなさい。

問十 文中の 内に入るセリフとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「こんなにキレイなものを入れてもらえるのに。もっと昔から身体をみがいておけば良かったよ」
イ 「もう身体が弱っちゃったからね。横倒しになって中身を出して分別させ直すこともできないよ」
ウ 「こんな誰も知らない田舎にきちゃったよ。都会の街でいちばんのゴミバケツを目指していたのに」
エ 「そこいらじゅう生ゴミだらけなのに。これじゃまったく、ゴミバケツに生まれた甲斐がないよ」

問十一 本文中には「青木青兵」という名前をもつ対象が二種類登場しています。十字以上十五字以内で二種類、文中から書き抜きなさい。

□ 次の各問いに答えなさい。

A 漢字の問題

問一 次の——部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなにそれぞれ直しなさい。

- (1) 人々がブキを使って争うことのない平和な世の中にしたい。
- (2) お菓子作りをするならまず、ザイリヨウを買ってこないとね。
- (3) 閉じ込められた人々をカイホウして自由を与えてあげなければ。
- (4) 将来の夢は旅客機で空を旅するパイロットになることだ。
- (5) 昔はお祝いという尾頭付きの魚を食べたものだ。

問二 次の——部に用いた漢字が正しければ○、誤っていれば正しい漢字を解答欄に書きなさい。

- (1) 身長が10メートル近くある臣人に食べられそうになったよ。
- (2) 植物園の気温はコンピュータで自動官理されています。
- (3) 新しい熱病の原因は未知のウイルスであることが分かった。
- (4) 同じ名字の人間が隣同士になったのも何かの縁。どうぞよろしく。
- (5) 雨が降ったらイベントは別の日に延期するしかないだろうね。

B 語句知識の問題

問三 次に示す傍線部の言葉の意味として、ふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

(1) 知ったかぶりをしている彼も、くわしく聞かれれば**馬脚をあらわす**だろうね。

- ア 待ちきれずに飛び出す
- イ すごい勢いで逃げ出す
- ウ 隠していた欠点がばれる
- エ ますます長所がかがやく

(2) パーティーの来場者数、**さば**を読んで記録しないように頼むよ。

- ア 都合良く数をごまかす
- イ たくらんでうそをつく
- ウ 他人まかせにしてしまう
- エ きちんと確かめない

(3) 君は人の言うことなら何でも**鵜呑みにする**んだなあ。

- ア 裏を読んで本音をさぐるうとする
- イ よく考えずにそのまま信じ込む
- ウ 最初からダメだと決めつける
- エ 聞きたくないので耳をふさぐ

(4) 急に猫なで声を出すから驚くじゃないか。

ア 人のご機嫌を取ろうとする甘えた声

イ 心地良さそうにリラックスした声

ウ くすぐったそうで落ち着きのない声

エ 機嫌が悪そうに怒りをふくんだ声

(5) 昨日濡れねずみになったせいで今日熱を出したんだね。

ア 水びたしのところに入り込む

イ 湿気の多いところで長時間過ごす

ウ 濡れるはずのない場所で濡れる

エ 服を着たままびしょ濡れになる

C 言葉の使い方の問題

問四 傍線部の言葉を漢字やひらがなの言葉に置きかえたとき、最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

(1) 手渡されたプリントには文字の間違いがあった。

ア 問題用紙 イ 印刷物 ウ 連絡帳 エ 投票用紙

(2) 缶に入ったとうもろこしのスープが大好きです。

ア ご飯 イ 料理 ウ 汁もの エ 果汁

(3) 一日に何度ポストをのぞいても手紙は届かないぞ。

ア 郵便受け イ 手紙箱 ウ 情報源 エ 通信入れ

(4) 私もバレエの有名なコンクールで入賞したい。

ア 競技会 イ 発表会 ウ 登録会 エ お楽しみ会

(5) 昨年よりもデラックスな衣装を着る予定だ。

ア 豪華 イ 巨大 ウ 高額 エ 有名